

福岡市

「少年科学文化会館ホール」がなくなる!?

えっ!



ホールを備えた新施設を

財政を口実に子どもの文化を軽視する市政は許されません。新施設は「科学」だけでなく「文化」を重視し、劇場型ホールを備えたものにすべきです。日本共産党は議会内外で市民と力を合わせてがんばります。

日本共産党

少年科学文化会館ホールは、「子どもに豊かな文化を」との市民の要望にこたえて設立され、以来41年間、子どもに演劇や音楽など文化芸術を提供する場所として大切に利用されてきました。利用者は小学生を中心に年間6万2000人にのびります。

をなくしたら、その代わりはないのではないか――議会での日本共産党の追及に、所管する市子ども未来局は、子ども専用のホールの必要性を否定。中規模ホールが市内で不足していることを認め、たにもかかわらず、福岡市民会館(須崎)の建替えなどで対応されていくと無責任な態度を示しました。

「少文ホール」に代わる施設はない

(少年科学文化会館)

市は新施設を「青少年科学館」(仮称)として、文化を外し科学に特化させようとしています。基本構想(案)は、科学教育の重要性を強調する一方で、文化面についてはその役割をほとんど評価

せず、「使える財源は限られてくる」などを理由に「役割と機能を絞り込み」「コンパクトな施設にする」として、劇場型ホールを「整備しない」と明記しています。

科学に特化し、文化を外していいのか

福岡市は「少年科学文化会館」(少文)を六本松九大跡地に移転することを決めました。ところが、発表された「基本構想(案)」は「現在の少年科学文化会館にあるような劇場型多目的ホール機能は整備しない」と記されています。この計画に驚きと不満の声があがっています。



現在の少年科学文化会館 (写真は市のホームページより)